厚生労働省 ひと、くらし、みらいのために Ministry of Health, Labour and Welfare

第３回縦断調査（出生児・成年者）の特別報告に関する研究会	資料１
令和８（2026）年10月28日	

研究会等の開催について（開催実績、研究テーマ等）

厚生労働省 政策統括官
（総合政策、労使関係担当）
Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

Ⅰ．縦断調査（出生児・成年者）の特別報告に関する研究会

目的

◆ 21 世紀出生児縦断調査（平成 22 年出生児）及び 21 世紀成年者縦断調査（平成 24年成年者）では、それぞれ 10 回以上の調査を実施している。そこで、複数年分のデータを用いて調査対象者の行動の変化を分析し、併せて過去に実施した縦断調査と世代間比較を行うことにより、厚生労働行政に関する施策との因果関係を分析等するため、学識経験者等からなる「縦断調査（出生児・成年者）の特別報告に関する研究会」（以下「本研究会」という。）を開催し、専門的な見地から縦断調査の特性を活かした因果推論的分析等を行うとともに、縦断調査に関する助言を得るものとする。

研究事項

◆ 本研究会は、主として次の事項について研究を行う。

◆ 研究にあたっては、構成員自らが因果推論的分析等を行うこととし、研究会において分析テーマ及び分析方法等の意見交換を行いつつ、研究結果について報告書として取りまとめることとする。

(１)調査対象者の家庭環境及び成長過程の変化や就学・就職・結婚・出産・子育て等のライフイベントに応じた行動の変化に関する因果推論的分析等について

(２)その他、特別報告に関すること、縦断調査の利活用や展望等について

Ⅱ．研究会及び研究報告会　開催実績

- 令和7年12月からこれまでに、研究会を2回、研究報告会（非公開）を5回開催した。
- 第２回以降の研究報告会では、各委員による研究の途中経過報告及び意見交換が行われ、研究内容の充実・発展に向けた議論が重ねれらた。

会議区分	開催日	主な議題
第１回研究会	令和７年12月３日	・研究会の開催及び座長等の選任について ・縦断調査特別報告の実施方針について
第１回研究報告会	令和８年２月２日	・データの読み方 ・研究テーマ・分析方法について
第２回研究会	令和８年３月23日	・研究テーマ・分析方法について ・令和８年度の研究スケジュールについて
第２回研究報告会	令和８年５月21日	・研究の途中経過報告 （内藤委員、毛塚委員、南委員・岩澤委員・守泉委員） ・令和８年度、令和９年度の研究スケジュール
第３回研究報告会	令和８年６月24日	・研究の途中経過報告 （斉藤委員、榊原委員、泉田委員）
第４回研究報告会	令和８年７月21日	・研究の途中経過報告 （西村幸満委員、卯月委員、夏委員）
第５回研究報告会	令和８年８月20日	・研究の途中経過報告 （下瀬川委員、黒川委員、西村仁憲委員）
第３回研究会（今回）	令和８年10月28日	・研究会等の開催実績、研究テーマ及び研究スケジュールについて ・特別報告（報告書）の構成案について ・各委員の研究内容（中間報告）

Ⅲ．研究テーマ

（委員：五十音順）

委員	研究テーマ	出生児	成年者
泉田委員	・子どものけがの関連要因についての分析	○	
卯月委員	・子どもの社会経済的背景が学校生活に及ぼす影響に関する出生コーホート間比較	○	
夏委員	・家族形態、ライフステージと子どもへの関わりに関する分析	○	
黒川委員	・初期キャリアの中期的影響に関する分析		○
毛塚委員	・コロナ禍は離婚の規定要因を変化させたか ・コロナ禍は若年層の交際・結婚への移行を不活発にしたか		○
斉藤委員	・夫婦の働き方・家事育児分担・追加出生に関する分析	○	
榊原委員	・子どもの健康ショックと養育費用	○	
下瀬川委員	・学校中退者は「不利」からいかにして脱出するのか		○
内藤委員	・働きやすい労働環境が既婚女性の離職行動に与える影響		○
西村幸満委員	・「男性稼ぎ主モデル」の推移と要因分析		○
西村仁憲委員	・学校における学習内容の変化（学習カリキュラムの違い）と進路選択及び職業選択との関係を検証	○	
南委員 岩澤委員 守泉委員	・1980年代生まれの出生力 －卒業時の経済状況、妊娠時およびその後の出生意欲の変化に着目して－		○

Ⅳ．スケジュール

- 令和８年度及び令和９年度の研究スケジュールは以下のとおり。
- 令和８年度は引き続き研究報告会における途中経過報告や分析結果に関する議論を進め、第４回研究会において結果報告を行う。
- 令和９年度は研究結果を精査し、報告書として取りまとめ、刊行する予定である。



